

緑化用ツツジとサツキの種間交雑品種							
<p>【要約】サツキとツツジの種間交雑により5月上中旬に開花し、「三重サツキ」と同程度の強健性をもつ系統として、鮮紫ピンク色の「0703」、明紫赤色の「0710」、鮮紫ピンク色の「1212」を育成した。</p>							
三重県科学技術振興センター・農業技術センター・花植木センター					連絡先	0593-70-4977	
部会名	野菜・花き	専門	育種	対象	緑化植物	分類	普及

### 【背景・ねらい】

ツツジ・サツキ類は、緑化用として4月下旬開花のクルマツツジ、5月上旬開花のヒラドツツジ、6月開花の三重サツキが広く植栽されている。しかし、5月上旬以降には花が途切れる状況にあり、連続して花を楽しむ植栽体系になっていない。

そこで、これらの中間時期に開花し、新しい花色を持ったツツジ類の育成を目的にツツジとサツキの種間交雑により新しい品種を育成する。

### 【成果の内容・特徴】

#### 1. 育成の経過

##### 1) 系統番号「0703」、「0710」

昭和59年「薩摩紅」(サツキ)を子房親に、「小壺」(クルマツツジ)を花粉親として交配し、昭和60年には種して得られた256株を平成8年までに4回の選抜を行い、「三重サツキ」と同程度の強健性を有し、花色や開花時期の異なる2系統を選抜した(表1)。

##### 2) 系統番号「1212」

昭和59年「長崎熊野」(サツキ)を子房親に、「小壺」(クルマツツジ)を花粉親として交配し、昭和60年には種して得られた96株を平成8年までに4回の選抜を行い、「三重サツキ」と同程度の強健性を有し、花色や開花時期の異なる1系統を選抜した(表1)。

#### 2. 生育・開花特性

##### 1) 「0703」

5年間の平均開花日は5月9日で、花色は鮮紫ピンク色(JHS9205)、1花序に複数の花蕾を着生する一重咲きの中型多花性である。葉は楕円形で「三重サツキ」と比べてやや小さく、徒長枝の発生がやや多く初期生育が旺盛で、冬期の紅葉程度はやや弱い傾向にある(表2)。

##### 2) 「0710」

5年間の平均開花日は5月11日で、花色は明紫赤色(JHS9706)、1花序に複数の花蕾を着生し、一重咲き中型多花性で花弁がやや厚い。葉は楕円形で「三重サツキ」と比べてやや大きく、徒長枝の発生がやや多く初期生育が旺盛で、冬期の紅葉程度はやや強い傾向にある(表2)。

##### 3) 「1212」

5年間の平均開花日は5月9日で、花色は鮮紫ピンク色(JHS9705)、1花序に複数の花蕾を着生し、一重咲き小型多花性でやや花弁が厚い。葉は楕円形で「三重サツキ」と比べてやや大きく、徒長枝の発生が少なく半球形の樹形になりやすい。また、冬期の紅葉程度はやや強く発現する(表2)。

### 【成果の活用面・留意】

1. 施肥管理は、従来の「三重サツキ」に準じる。
2. 緑化用に生産されているツツジ類と開花時期が異なるため、産地振興に活用できる。
3. 「1212」は、緑化用に加え、鉢花用花木としても利用可能である。

[ 具体的データ ]

表1. 育成の経過

系統番号	交雑の組合せ	養成苗数	一次選抜	二次選抜	三次選抜	四次選抜	備考
			S61年	S63年	H6年	H8年	
0703	薩摩紅×小壺	256株	67株	28株	12株	1株	H8から特性調査
0710	薩摩紅×小壺	256	67	28	12	1	
1212	長崎熊野×小壺	96	45	21	13	1	

表2. 育成系統の特性

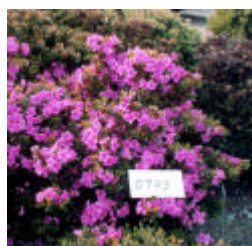
系統番号	子房親×花粉親	開花期	花色	紅葉程度		耐乾性
				11月下	2月上	
0703	薩摩紅×小壺	5月9日	9205(鮮紫ピンク)	2	2	中～強
0710	薩摩紅×小壺	5月11日	9706(明紫赤)	4	4	中～強
1212	長崎熊野×小壺	5月9日	9705(鮮紫ピンク)	3	4	中～強
三重サツキ(対照)		6月5日	9704(鮮紫ピンク)	3	5	強

開花期：5年間の平均(50%開花時期)

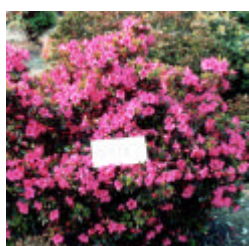
花色は、日本園芸植物標準色表(JHS)による。

紅葉程度：1(緑)～5(濃赤) (5年間の平均)

耐乾性：三重サツキを「強」とした場合



0703



0710



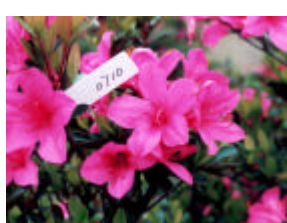
1212



三重サツキ



0703



0710



1212



三重サツキ

図1 育成系統の樹形と花序

[ その他 ]

研究課題名：特産農産物品種育成事業

予算区分：県単

研究期間：平成12年(昭和59～平成13年)

研究担当者：中野直，内山達也，鎌田正行